

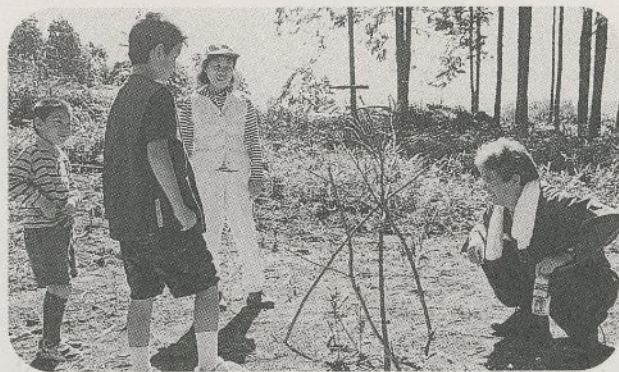
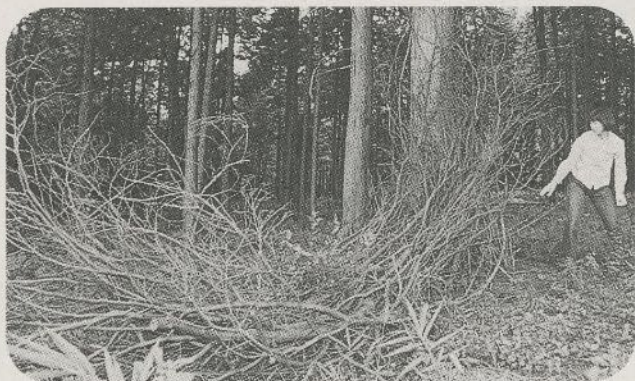
仮称 文化の森 準備だより ⑪

— 森を考える — ランドアートワークショップ

秋も深まってきました。来年の今頃は、文化の森がオープンしていると思います。オープン1年前のプレイベントとして10月17日、「文化の森ランドアートワークショップ」を楽しみました。

「ランドアート」。聞き慣れない言葉ですが、これは、自然と親しんで遊んでいた頃を想いだしながら、身近にある木の枝や葉っぱ、石や土、時には光や影を使って表現を楽しむものです。文字通り「大地の芸術」です。

これは「清流と彫刻の街」実行委員会の事業で、これからの市民芸術の向上を考えてはじめて試みたものです。来年の文化の森オープンに向け、参加者の輪が広がっていくといいと思います。



▲講師の大久保英治さん

大阪在住の作家。自然のものを素材にした「ランドアート」の草分け的存在でヨーロッパなどでも活躍。1988年の美濃加茂彫刻シンポジウムに参加し、大手町公園に「環流—美濃加茂1988」があります。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。

(平成十一年九月分)

○製麺関係用具など七六点

(渡辺緑郎さん/川合町)

○稚蚕用給桑カゴ

(下蜂屋養蚕組合/蜂屋町)

○カンジキなど十点

(野口守和さん/太田町)

○人物資料

(大矢静枝さん/太田町)

○戦時中の債権など二点

(野口登美王さん/加茂川町)

○カヤ

(金森毅さん/岐阜市)

○糸アミ

(渡辺稔さん/川合町)

○茶ガマなど二点

(安田孝平さん/蜂屋町)

○昭和初期嫁入り道具など二点

(日比野昭郎さん/鳥町)

市民ミュージアム建設のため、現在いろいろな資料を集めています。文化課(文化会館内/■内四〇八)まで情報をお寄せください。